

歯科医師になって6年目。短いながらも色々な分岐点がありましたが、この研修は間違いなく大きな分岐点になりました。今まで、自分なりに日本の歯科医療に対して真摯に向き合い、目の前の患者さんがどうすれば健康になり、QOLの高い生活を送ることができるのかを考えてきました。日々の診療や院内でのディスカッション、講習会と精力的に頑張り今に至ります。しかし、自分の力のみでは限界もあり、また日々の診療に追われ、ついそのような考えから遠ざかり、こなす日々があったのも事実です。

そんな中、去年の若い歯科医師のためのオーラルフィジシャン育成セミナーを受講した際に、熊谷先生からグローバルスタンダードな歯科医療を見に行くことはすごくいいことだと勧めて頂き、参加することにしました。この日が待ち遠しく思っていた反面、具体的にどのようにこの研修を活かしていけばいいかはわかっていませんでした。

いざ、スウェーデンに到着し、熊谷先生のお手紙の内容を理解した時、初めて明確な目標がわかり、すべきことがわかりました。システムを忠実に模倣しても、決して患者さんの真の利益につながる歯科治療所として機能することはない。そのシステムを動かす「哲学」を学ぶ必要がある。この話を聞いた時は、自分の中でビビッとくるものがありました。あくなき探究心と、歯科医療に対して常に真摯な気持ちを持ち、自分の診療スタイルを構築し、そこに哲学というエネルギーを注入することで、患者さんの真の利益につながる診療ができるのだと思いました。

スウェーデンでの時間はそれを学ぶための時間であり、それを学んでいる先生の素晴らしい授業ばかりでした。How toだけを求めるのではなく、私たちが真の歯科治療を確立できるよう、この研修を通じて学んでいくのだと思いました。まだまだ先は長いですが、必ず実現できるよう、日々の診療を頑張っていきたいと思います。